

# むつごろう通信

2号

2002年

10月7日発行

(寄稿)

## 「海中散歩」

九州学院高等学校教諭  
河田雅文

私は、昭和61年3月に熊本大学理学部付属臨海実験所（現合津マリンステーション）を卒業した者です。学部4年生の1年間をここで過ごし、他の同級生よりも少々多めに海とかかわった経験もあって、いまだに海から離れられずにいます。ただし、海を職場にしているわけではなく、遊びの場が海中心となっているだけなのですが、

熊本の海というと、一般には有明海、八代海、天草諸島などを想像されるでしょう。また、海水浴や海釣りなども思い浮かぶかもしれませんが、それでは、海の中はどうなっているのでしょうか。

私の趣味はスキューバダイビングで、十数年天草の海を中心に潜っています。最近では講習も行ってい



天草では大変珍しい魚(クダゴンベ)

ますが、初めて天草の海を潜った方のほとんどが、「こんなに綺麗だとは思わなかった。」「天草にも熱帯魚がいるんですね。」「サンゴがあるとは知りませんでした。」などといわれます。私も初心者頃はそうでした。それが潜り込んでいくうちに、いろいろな生き物が見えてくるようになり、1年を通して潜ってみると海の中にも季節があることを実感できるようになりました。また、人によっては水中で息ができるだけで満足する方や無重力の世界で宇宙遊泳ならぬ水中遊泳を楽しんでいる方などもいらっしゃいます。そういえば、宇宙飛行士の訓練の1つにスキューバダイビングという項目もあるそうです。

天草の海は、1年中潜ることができます。水温が低いときには、濡れないドライスーツというものもあります。機会があったら、ぜひ水中散歩を楽しんでみてください。



四平棒公園より大ヶ瀬を望む